

祝!入賞 ねんりんピック宮城・仙台2012



賞状を手に初優勝の喜びを語る

古川水泳協会（大崎市）の理事長を務める柴原さんは、60～64歳が出場する背泳ぎの25メートルで優勝、50メートルで準優勝を果たした。

ねんりんピックで宮城県代表の優勝は、水泳では大会史上初めてで、今大会における県代表の優勝も、ただ一人だ。

高校時代に水泳部へ

入部。卒業してから遠ざかっていたが「還暦を目前にもう一度泳ぎたい」と再開した。週5回ほど練習に通い、体力づくりにも励んだ。

「年を取るとモチベーションを保つのが大変だが、来年3月末で定年退職した後に日本記録に挑戦したい」と意気込む。

水泳

背泳ぎ25メートル 優勝

大崎市 柴原一雄さん(60)

宮城県勢が大活躍

多くの感動をもたらした「ねんりんピック宮城・仙台2012」が閉幕した。18種目のスポーツ・文化交流大会に参加した宮城県選手団は300人以上。全国各地から訪れた選手と正々堂々、交流を図りながら勝負し、5種目で優勝した他、厚生労働大臣賞や最高齢者賞といった輝かしい成績を残した。地元開催での受賞は喜びもひとしお。受賞者にインタビューした。

「こんな立派な賞をいただけると思わなかった。こうして元気でいられるのも優しい家族と皆さんのおかげ」とにっこり。

グラウンド・ゴルフは80歳になって始めた。「個人競技なので、調子がいい日も悪い日も他の人に気兼ねなく楽しく参加できるのが魅力」と言い、現在も各地の競技大会に積極的に参加。週3回、自宅から自転車で練習に通う。

「まだまだ元気。あと3、4年はまぜてねって（競技仲間の）皆さんにお願いしています」と、笑顔で話す。



撮影日の練習でも2度のホールインワンを決める活躍

グラウンドゴルフ

最高齢者賞

多賀城市 末永イネ子さん(89)

「何にでも興味を持つ性格」という斉藤さんは、10年前に水彩画や油絵を描き始めた。

厚生労働大臣賞を受賞した洋画「晩夏」は、自宅の庭で育てたヒマワリを題材にした。約半年かけて完成させた作品で、色を巧みに使い分け、花の形状や部屋に差し込む光などをリアルに表現している。

「絵が無事に完成して素晴らしい賞をもらったのも、全て家族の支えがあったからこそ。本当に感謝しています」と喜ぶ。



経営する美容室でも作品を展示している

美術展

厚生労働大臣賞

栗原市 斉藤文子さん(71)

普段は地元多賀城市新田中の研究会員の他、職場の現・旧職員と卓を囲む。ねんりんピック初出場での快挙には、「今回はツキに恵まれた」と控えめ。「いつも相手をしてくれる仲間のおかげ。大会数日前に親友が他界し、その友人も見守ってくれたのだと思う」。

試合始めのあいさつでは、テーブルを囲む他県の選手に震災復興支援の感謝の意を伝えた。「かえってねぎらいや励ましの言葉をいただき、感慨深かった。さまざまな場面で、全国の皆さんや友人たちとの絆を確認できた大会でした」。



マーじゃんに親しみ40年余り。「健康マーじゃんはいいコミュニケーション手段」

健康マーじゃん

赤ブロッケ個人戦 優勝

多賀城市 江口豊治さん(67)

ねんりんピック出場5回目で個人戦初優勝。「昨年は試合中になぎなたを落とし、判定負けとなってしまった。その悔しさがあったから、なおさらうれしい」。対戦相手は、おとしの優勝者や前日の団体戦の優勝者など。楽な戦いではなかったが「ここ一番で無心になれた」と勝因を語る。

会場には、講師を務めるなぎなた教室の門下生や家族の声援が響いた。「いつもの大会にないプレッシャーを感じた半面、子どもたちに自分の試合する姿を見せられてよかった」。



メダルは三つ獲得。個人戦の他、団体戦3位、演技競技優秀賞の成績を残した

なぎなた

試合競技個人戦 優勝

松島町 鈴木照子さん(66)